

令和5年度秋田県協議会重点取組事項PDCAシート(最終報告)

○農産物輸送の労働時間等の改善

○重点取組事項概要

【実証実験の実施目的】

将来的にドライバーの高齢化や人材不足による物流の停滞が強く懸念されている中、秋田県内の青果物については、主に首都圏向けに出荷されており「働き方改革」に伴うドライバーの拘束時間短縮及び「改善基準告示」遵守に向けた取り組みの必要性が生じていることから、「首都圏向けの青果物輸送に係る実証実験」を通じてより効果的・持続的な輸送体制の構築に向けたモデル作りに取り組む。

【今年度の狙い】

次年度以降と同様の体制で「通年化実施」の最終確認・検証を行う。

○OKPI

【KPI】ドライバー拘束時間削減

「通年化」を見据え、集荷と幹線の分離・ハブ拠点の管理運営・パレタイズ作業負担の適正化等により、拘束時間を3時間程度短縮し、12時間以内に収めることを目指す。

○重点取組事項の取組状況

2023年8月20日から8月26日までと、2023年11月5日から11月11日までの2回にわたって秋田県(県南)から首都圏各市場間のトラックの青果物輸送について実証実験を実施。

【実施内容】

物流効率化に向けて主に以下の取組を進めた。

1. 直送/集荷/幹線便 運用設計
2. 幹線便(直送便)台数の最適化
3. ハブ拠点 運営管理
4. 出荷情報連携・精度向上
5. パレタイズ作業 適正化

【KPI達成状況】ドライバーの拘束時間削減

- ・11月5日から11月11日までの実証実験の平均拘束時間は12時間25分となり、実験前の現状から約2割改善できた。
- ・目標としていた12時間以内には収まらなかったが、改正後の改善基準告示の1日の拘束時間である13時間以内には収まる結果となった。

○課題及び今後の対応の方向性

【課題】

実証実験の結果、「幹線便積載率」、「幹線便ドライバー総拘束時間」、「ドライバー総労働時間」、「ドライバー生産性(時間当たりの売上)」の改善が確認された。一方で、ドライバー拘束時間対策を優先した場合、「物流関連コスト」の上昇は避けられないことが改めて確認された。

【今後の対応の方向性】

実証実験の結果、ドライバーの拘束時間等の改善が認められたことから、今回の各種取組について、今後、以下の対応を行う予定。

- ・通年化実施のフォローアップ
- ・県北、中央地区への展開
- ・農産物輸送以外の他分野への展開

また、実証実験の結果、物流関連コストの上昇が避けられないことが確認されたことから、適正な価格転嫁に向け、消費者の意識改革・行動変容を促す取組を行う予定。